

topic

1

第8回 日本女子大学「家政学部賞」

日本女子大学 家政学部では、私たちの生活をより合理的で豊かなものにするために、家庭生活や生活環境に関わる諸問題を自然科学的・人文科学的・社会的に探求し、人類の福祉に広く貢献する個人および団体の活動を奨励することを目的として、2008年に「日本女子大学家政学部賞」を創設し、受賞者を表彰しています。

今回は、下記の個人・団体が受賞し、2015年10月22日に受賞記念講演会と授賞式が行われました。

第8回 受賞者

映画監督 石山友美氏

監督作品『だれも知らない建築の話』の試みに対して


全盲視覚障害者用衣服タグ「いろポチ」開発グループ

全盲視覚障害者に衣服の色を伝える触覚タグの開発に対して

生活クラブ「本選びの会」

市民自身による豊かで自立的な読書文化を創造するための活動に対して

第8回
『日本女子大学家政学部賞』授賞式・記念講演会



日時
2015年10月22日(木) 13:30～

場所
日本女子大学 目白キャンパス
新館山崎1階 大会議室
(〒112-8681 東京都文京区目白1-2-1)

参加費
無料

受賞者記念講演
映画監督
石山友美氏

全盲視覚障害者用衣服タグ「いろポチ」開発グループ
佐川賢氏

生活クラブ「本選びの会」
大久保明美氏 島野榮佳子氏

問合せ先：家政学部事務 (TEL: 03-5881-3000)

第8回 住居学分野の受賞理由

石山友美氏（映画監督）監督作品

ドキュメンタリー映画

「だれも知らない建築のはなし」の
試みに対して

石山友美監督は、日本女子大学の家政学部住居学科を卒業し、磯崎新アトリエを経て、渡米。建築、芸術論、社会理論を学ぶ間に映画製作に興味をもつようになる。2014年に「少女と夏の終わり」で監督デビューを果たし、本作「だれも知らない建築のはなし」は、2014年建築国際博覧会ヴェネチアビエンナーレ日本館コミッション、建築史家の中谷礼仁氏に依頼された資料映像を劇場用に再構成したものである。

1970年から現在から至までの中で日本における建築の断片が、日本の建築家、磯崎新、安藤忠雄、伊東豊雄、アメリカの建築家ピーター・アイゼンマン、オランダの建築家レム・クールハース、建築理論家のチャールズ・ジェンクス、に、世界の建築を紹介しはじめた日本の建築雑誌編集者2名を加えた、計の8名のインタビュー映像構成によって紹介されていく。2度のオイルショック、戦後の高度経済成長のおわり、不況のはじまり、バブル経済の勃興と破裂、グローバル経済、リーマンショック、2つの大震災などが、その背景には見えてくる。

それぞれ別な空間、別な時間に行われたインタビューは、8名がそれぞれ、ある者は独白するかのような、ある者はこちらに語りかけるような、その姿が映し出される。それらは編集によって、同じトピックスに対してまるで語りあっているかのようにつながり、時代と建築、が浮かびあがってくる。

建築雑誌編集者である植田実氏はその有様を「劇映画からもドキュメンタリー映画からも離れた、架空の現実というべき第三の場をつくりあげている。」と評している。単なるアーカイブでもなく、余韻が仕込まれたドキュメンタリーでもない。経済、政治に対してはどこまでも無力な存在である建築家という個人。その、まぎれもない、ひとりの人間として、いかに建築家たちは、公共空間に関わろうとしてきたか。それが群像劇として、その息づかいが浮かび上がる。

インタビューの合間に差し挟まれる建築を映す映像も、建築を説明するためにアングルを変えたりはしない。ほとんどスチール写真のように固定化されたアングルによる映像がしばらく流され、そこには、人や車、光などの活動が浮かび上がり、静かに明滅している。石山氏は、「いろんな映画の中にでてくる都市の風景というものは、作家が意図して作り込んでいるものと、作家が意図せず映り込んでしまっているものが両方あって、その組み合わせが躍動感のある時代の表現となっているような気がします。」と語る。建築よりも建築がつくる世界の方を意識している。

建築という触知できる物、人々の営みである世界をつくるこの職能は、個人として現代社会の中でどう在ることができるとか。そこに明確な答えは示されていない。しかしそれは、建築家だけの問題ではなく、消費社会における都市、震災後の東北、そこに生きる現代の人間を考えるための構図も見え隠れする。

映画の原題は「Inside Architecture」。建築の内面を見つめることで、世界を見せる「第三のドキュメンタリー」を制作したその知性と創造性について高く評価したい。

住居学科の授業紹介「構造・材料実験」

3年次 前期授業
科目担当：石川孝重教授 平田京子教授

構造・材料実験の授業は、実験室で自分たちでコンクリートを練り、型枠に詰め、強度を調べたり、木材をのこぎりで切り出して曲げ試験をしたり、みんなで協力して鉄骨造の1/2模型を組み立てたりと、机の上だけでない演習ができる充実した授業です。プログラムを履修した先輩の感想とともにご紹介します。

実習は木材、鋼材、コンクリート、鉄骨など建築物にとって基本的な材料を扱います。授業で習った内容を実際に製作して考えてみる、みんなで

グループになって作業するのが特色。本学が誇る振動台（3m×3mの居室）での大地震の振動体験も。これらを通じて材料特性や強度、地震などの外力に対する挙動を実感する体験型の学習をします。一人一人が材料を直接製作することができるほか、グループのみんなで助け合いながら実験を行います。毎年、学生による授業満足度が高く、とても充実した体験をすることができる授業です。

木材実験

ひのきや杉など樹種を変えて、縦圧縮試験・横圧縮試験・曲げ試験を行います。試験体は鋸を使い、自分たちの手で切り出します。



試験体の作成



木材の強度試験

構造安全性能

構造安全や防災に関する実習。本学の振動台は電気で揺れを発生させる静音性の高い、めずらしい実験設備で、これまでもテレビ番組で取り上げられたほか、企業が建築主と対話するための実験なども行われ、東京スカイツリーの施工実験にも使われました。



木造についての講義



振動台で、揺れを体験

防災実習

例年、本所防災館を訪れています。大地震・煙・消火・暴風雨体験でいざという時の行動を身につけ、災害の恐ろしさと防災の重要性を体験学習。楽しい学外実習です。



防災館で、暴風雨の体験

鉄骨組立実習

鉄骨建物を実際に自分たちの手で組み立てます。組立図をみて理解した上で、ボルトを用いて鉄骨造の建物を組み立てていきます。図面で見えていたものを実際に組み立ててみることで、より実感をもつことができます。また組みあがった鉄骨造建物の中に入り、内側から普段は見ることのできない構造の細部を見ながら先生方の講義を受けるといって、貴重な体験ができます。

そして組み立てて終わるのではなく、部材や接合部を計測し今度は実際に自分たちの手で図面の作成を行います。これにより構造物の細かなディテールを知ることができます。このような実習こそがこの授業の醍醐味と言えます。

履修学生の感想



鉄骨の組み立て

鋼材実験

鋼材の引張試験を行います。自分たちで鉄筋カッターなどを用いて、必要な長さに切り出します。実験結果を測定してグラフを作成・考察。鉄筋に張り付くように観察する学生のみなさん、実験結果をわくわくしながら観察中。



鋼材切り出し

コンクリート実験

自分たちで実際にコンクリートの試験体を作成し、実験を行います。試験体を作成するために、調査設計条件を見ながら自分たちで水・セメント・骨材・混和剤の必要な量を計算します。そして型枠にコンクリートを打った後、1週間水中で養生させ次の授業で一週強度を測定します。1か月後には再度圧縮・引張試験。試験体の作成から実験までを自分たちの手で行うことで、一見とりつきにくい構造材料に対して楽しみながら興味をもって学ぶことができます。

履修学生の感想



コンクリート作り



圧縮試験

これらの実験・実習を通して、知識としてのみ学んでいた構造材料の性質の相違点やそれぞれの特性を、体感して学習することができます。コンクリートを練るなんて、一生に一度あるかないかの体験なので、学生のみなさんは自分たちの練ったコンクリートのかたまり具合を毎年、とても気にしています。寮地区にある実験室で春からの授業、どうぞお楽しみに。